

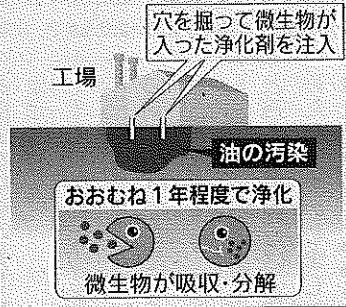
日本経済新聞

微生物で工場の土浄化

ゲイト油の分解、操業停止不要

微生物を使った土壌や排水の浄化を手掛けるゲイト(石川県野々市市)は工場敷地の浄化事業に参入した。工場の操業を止めることなく、土に染み込んだ機械油を分解できる。石川県工業試験場と共同特許を持つ微生物が国の指針に適合すると承認されたことを受け、大手製造業からの受注を狙う。3年後に2億円の売り上げを目指す。土の中に人体に無害の微生物を注入し、油分を水と二酸化炭素に分解する仕組みだ。浄化期間は4カ月から1年程度。標準的な受注金額は1立方メートルあたり3万〜4万円。ゲイトは主にガソリンスタンドの地中にある石油タンク周辺の土壌浄化を手掛けてきた。個別案件の受注規模が小さいため、数千円以上の金額が見込める工場向けの参入を狙ってきた。9日、県工業試験場と共同で特許を持つ微生物の一種が、経済産業省と環境省に微生物を使う汚染浄化の指針に適合すると承認された。承認は全国8例目で、同社が使っている微生物のうち「最も有効に機能する菌種」(坪内武夫社長)という。国からお墨付きを得たことで、大手からの受注がしやすくなるとみている。既に千葉県内の金属加工業者で試験的に作業を進めている。独自で顧

ゲイトの工場向け土壌浄化の仕組み



客開拓を進めるほか、土壌処理に強い建設会社とも連携する考えだ。

客開拓を進めるほか、土壌処理に強い建設会社とも連携する考えだ。従来の土を持ち帰って調べたため、数日間を要した。浄化が進んだ。

作業の効でない場合に微生物を増やすなど早く対策が打てるため、作業期間を短縮できる。

ゲイトの売上高は2013年1月期で約1億円。現在はガソリンスタンド向けが売り上げの9割近くを占める。工場向けを手掛けることで、16年1月期に全社の売上高を3億円超に増やす考えだ。